

# 2022年度 活動報告書

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

## 1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

### <ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

### <ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

### <バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

## 2 2022 年度業務の全体像

### (1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。2022 年度は、2021 年度と同程度の業務数、WS 関連指標であった。

指標名	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
業務数	37	32	18	27	<b>27</b>
WS提供日数	135	130	71	99	<b>92</b>
WS提供時間	460.5	496.0	292.0	396.5	<b>331.0</b>
WS参加者数	1,446	2,056	489	849	<b>790</b>
延べ参加者数	3,200	3,981	1,484	2,207	<b>1,839</b>
新規業務数	12	10	3	8	<b>9</b>
新規業務率	32%	31%	17%	30%	<b>33%</b>
継続実施数	23	22	15	19	<b>18</b>
指導者研修率	51%※	47%	83%	63%	<b>64%</b>

※ 業務数の中には6つの自主プロジェクトを含む。但し、WS 関連数は対外的なものだけを計上した。

### (2) 扱ったテーマ 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く (母数 25)

◇国際理解系 (SDGs、国際交流、多文化共生を含む) が 17 件と最も多く、次いで、参加・まちづくり系が 4 件、人権系が 3 件となっている。

テーマ	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
国際理解系	11 件	11 件	8 件	17 件	<b>17 件</b>
人権系	7 件	5 件	4 件	4 件	<b>3 件</b>
環境系	0 件	1 件	1 件	0 件	<b>0 件</b>
ファシリテーション・参加・まちづくり系	14 件	10 件	1 件	3 件	<b>4 件</b>
全複合	1 件	2 件	1 件	1 件	<b>1 件</b>

(3) **実施した地域** 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 21 業務）

◇愛知県が 13 件と最多で大半を占めている。岐阜県・三重県からの依頼があった。

地域	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
愛知県	22 件	18 件	8 件	14 件	<b>13 件</b>
岐阜・三重県	2 件 [2,0]	2 件 [2,0]	0 件 [0,0]	0 件 [0,0]	<b>2 件</b> [1,1]
香川・高知県	5 件 [3,2]	5 件 [4,1]	1 件 [1,0]	4 件 [4,0]	<b>5 件</b> [4,0]
その他遠県等	3 件 長野、滋賀、東京	2 件 長野、茨城	3 件 長野、茨城、山口	3 件 長野、静岡、東京	<b>1 件</b> 静岡

(4) **主催者** 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 21 業務）

◇教育団体系（教育委員会、学校）と JICA からの依頼がともに 7 件と最も多く、次いで自治体系が 5 件、NPO が 2 件となっている。

主催者	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教育団体系	11 件	9 件	1 件	9 件	<b>7 件</b>
NPO	8 件	7 件	3 件	3 件	<b>2 件</b>
自治体系	6 件	7 件	2 件	4 件	<b>5 件</b>
JICA	5 件	3 件	4 件	4 件	<b>7 件</b>
その他民間団体	2 件	1 件	3 件	1 件	<b>0 件</b>

(5) **ワークショップの時間** 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇3～4 時間が 8 件と最も多く、次いで 3 時間未満が 7 件、12 時間超が 6 件などとなっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 80 時間
- ・JICA 中部 教師国内研修 52 時間
- ・JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）45.5 時間

業務あたりの WS 時間	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
3 時間未満	8 件	3 件	2 件	6 件	<b>7 件</b>
3～4 時間	7 件	10 件	4 件	7 件	<b>8 件</b>
4.5～6 時間	7 件	9 件	1 件	2 件	<b>3 件</b>
6.5～12 時間	6 件	2 件	1 件	4 件	<b>4 件</b>
12 時間超	11 件	8 件	8 件	5 件	<b>6 件</b>

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。

## (6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担当の場合は1人として計上）は42人であった。

◇代表の請負率（代表率）は67%であり、研究員請負率が30%にとどまっている。

◇2022年度現在の研究員がファシリテーターを担った者は6人である。

ファシリテーター		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
代表	伊沢	25	23	15	23	20
研究員	平野	4	4	1	2	1
	伴	4	4	3		
	久世	2	3	2	3	1
	谷口	1	1	1		1
	滝					1
	堀川	1	1			
	田口	5	4	3	3	1
	鉄井	5	5	4	6	2
	長野	5	2	2	2	2
	吉岡	1	1			
	佐藤	1	1		1	
同候補	永吉	2	2			
	大島		1	1	1	1
	夏目	1		2		
合計		58	53	35	42	30
代表率		43%	43%	43%	55%	67%
研究員請負数		28	26	16	17	9
同上率		48%	49%	46%	40%	30%
研究員補等請負数		2	4	4	2	1
同上率		3%	8%	11%	5%	3%
備考 （複数F依頼）		JICA(3) 刈谷(6) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(5) 名古屋JC(3) 惟の森(5)	JICA(3) 刈谷(2) 春日高(2) ボラセン(5) 惟の森(10) 北一社小(2) JICA筑波(2)	JICA(5) 名古屋JC(4) ボラセン(4) 惟の森(10)	JICA中部(3) JICA四国(4) 香川県国際交 流協会(5) 惟の森(6)	JICA中部(2) 中京大学(3) 惟の森(6)

注：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除く。  
2020～21年度はオンラインによるサブファシリテーターを含む。

### 3 各ミッションに対する 2022 年度の総括（成果と課題）

#### ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。 担当:川合

2022 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと試験運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析するためにまとめた評価指標は、NIEDT講座でふり取りアンケートで行った。 ◆今後、実際に NIED が行う他の各講座・研修で、アンケートを行い、集計・分析が必要となる。

#### ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。 担当:川合

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。

「わたし（自己）」に関わる力（自己形成分野）  
=自己理解、自己肯定感、自尊感情など

「あなた（他者）」に関わる力（人間関係形成分野）  
=コミュニケーション、他者理解、多様性理解など

「みんな（社会）」に関わる力（社会形成分野）  
=協力、協働、多様性受容、対立解決、政策提言 など

関わる力は関わることで身につく、参加する力は参加することで身につけることができます。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと試験運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析するためにまとめた評価指標は、NIEDT講座でふり取りアンケートで行った。 ◆今後、実際に NIED が行う他の各講座・研修で、アンケートを行い、集計・分析が必要となる。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2022 年度実績

◇現場…6 件  
 ◇テーマ…開発・国際理解教育、多文化共生、人権、環境、SDGs、公共  
 ◇参加者数…186 人（昨年度 261 人）、 ◇延べ 669 人（昨年度 888 人）  
 ◇提供時間…110.0 時間（昨年度 142.0 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2022 年度実績

◇現場…9 件  
 ◇テーマ…国際理解系、人権、公共  
 ◇参加者数…375 人（昨年度 487 人）、 ◇延べ 831 人（昨年度 991 人）  
 ◇提供時間…155 時間（昨年度 212.5 時間）

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編 2022 担当:久世

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T講座	<p>◇2回、12人、延べ15人の参加者を得て、国際理解教育の二つのテーマ(人権、環境)について講座を行い、テーマごとに参加者と共に学びを3年ぶりに深めることができた。</p> <p>◇うち NIED メンバー(新規入会者を除く)は 11 人、延べ 14 人が参加し NIED 人材の教育力向上に資することができた。</p>	<p>◆まだコロナ禍が残る中に加え、久しぶりのT講座ということで、様子を見ながら開催したため、広報も十分とは言えなかった。</p> <p>◆上記の理由もあるが、参加者が少数であった。また、その参加者の大半が NIED メンバーであった。</p>

<p>その担い手を 養成する研修 ②T講座プロジェクト</p>	<p>◇5月に担当理事、各回の担当ファシリテーター2人でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを練り上げた。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いを行い、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。当日は6時間に渡るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、「よかったところ」「さらに良くなるための改善点」を中心に話し合いを行い、スキルアップを行うことができた。</p> <p>◇T講座全体を通して実際にファシリテーターとして経験値を増したメンバーのみならず、講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。</p> <p>◇3年ぶりの開催により、対面で行うワークショップの良さを再認識することができた。</p> <p>◇講座後にNIED外の参加者1名からNIEDに入会する申し出を受けた。</p>	<p>◆2年間、開催できなかった分、ファシリテーターとしてのステップアップ・システムに滞りができたと感じる。反面、ファシリテーター希望者が年々減ってきている印象もある。F講座の盛況を見ても潜在的なニーズがあるはずなので、より積極的なアピールを行うことが望まれる。</p> <p>◆NIEDのプログラム、ファシリテーションをよりよく提供しつづけるために、T講座のプログラムのあり方、メイキング体制について、引き続き検討していく必要がある。</p>
<p>その担い手を 養成する研修 ③NIED寄合T講座系</p>	<p>◇2回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。</p> <p>◇3年ぶりに対面で行う検討会を経て、顔を合わせながらじっくりとプログラムを検討する寄り合いの必要性を実感できた。</p>	<p>◆新入会メンバーも増えている。より積極的にT講座検討寄り合いをアピールし、もっと多くの人数で検討できるようしていく。</p> <p>◆NIEDの人材育成のためにも、T講座とそれに伴う寄り合いを継続していく</p>

**b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編 担当:伊沢**

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	◇ 年度内に開催することができなかった。	◆ 3月に開催を予定していたが、日程を決定する前に、年度末の仕事が例年以上に集中し、3月にファシリテーター講座の3日分を確保することができなかった。年度当初に F 講座日程を決定し、それを優先する必要がある。

**c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト 担当:伊沢**

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	<p>◇開校4年目の惟の森は生徒数 26名(1年生:2名、2年生:4名、3年生:2名、4年生:4名、5年生:5名、6年生:4名、中1:3名、中3:2名)。NIED は継続して惟の森の「テーマ・スキル学習」に、NIED ファシリテーターを低学年に1名、高学年に1名を派遣してきている。今年度は年間 16 回(1回は3コマ)、7名のファシリテーターが交代で 16 回を担当した。</p> <p>◇基本構想に沿って、人権、環境、平和というテーマと、わたし・あなた・みんなに関わるスキルについて参加型で学ぶ場を提供しているが、前年度のふりかえりを基に、テーマ展開を改善してプログラムを作成した。</p> <p>◇ファシリテーター・ミーティングを節目節目で開催し、こどもの個性、クラスの現状などの情報共有を行い、学習者の興味関心を引き出しながらテーマ・スキルの目標を達成できるよう、ここまでの経験知を加味してアクティビティを工夫した。</p> <p>◇ファシリテーター・ミーティングでは、担当 F の「アクティビティの引き出しを増やす」ことを目的に加え、これまでに提供してきたアクティビティや、テーマに沿って F 個人が持っているアクティビティ情報を共有し、データとして蓄積した。</p> <p>◇今年度から、毎回子どもたちに配付するレジュメを作成した。テーマ、ねらい、プログラム、必要資料などが書かれたもので、視覚的に手元にレジュメがあることで、その日テーマ・スキルで取り組むことが最初にイメージでき意識化される効果があった。</p> <p>◇特に当初からいる子どもたちについては、テーマ・スキル学習というカリキュラムに慣れ、「考える」「伝える」「聞く」「協力する」などのスキルが育成されていることを実感できた。</p> <p>◇これまで4年間(プレ開校から含めると5年間)に各 F が提供してきたプログラムを蓄積共有するシステムを作っており、現場の子どもたちに合うように、ブラッシュアップし続けている。</p> <p>◇テーマ・スキル学習のない中学部からの依頼で、「テーマ探究」の一貫として「ファシリテーター、ファシリテーションとは」のワークショップを3コマ提供した。全校ミーティングなどでファシリテーターをする機会がある中学生と、「ミーティングで困る時／ファシリテーターとしてこうするといいかも」を考えることができた。</p>	<p>◆「プロジェクト」というカリキュラムとの隔週となり、「テーマ・スキル学習」の間隔が空くことで、テーマのつながり、ファシリテーターと子どもたちとの関係を作り維持することが少し難しい。</p> <p>◆講義的な情報提供を少なくし、アクティビティベースの参加型で「知り・考え・気づく」場を作るためにどうするか、F 間で検討し共通基盤を持ちたい。</p> <p>◆惟の森の主要5カリキュラムがそれぞれ別ものではなく、「知恵の三つ編み」として相互に関連し合うよう、惟の森スタッフと検討したい。</p>

#### d. IVY(アイビー) 制度 担当:川合

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇2022 年度の利用は、コロナ禍で制約がある中で、1 件 1 人(JICA 開発教育指導者研修(実践編)であった。	◆会員それぞれの生活の優先順位があるが、NIED 内の人材育成という観点から、可能性のある人に個別にアピールしていく必要があるかもしれない。

#### e. NIEDファシリテーター制度( 研究員、研究員候補、T講座F経験者) 担当:川合

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F制度	◇受託・派遣を担った代表以外のファシは次のとおりであった。 ① T講座F経験者… 0 人 ② 研究員候補…1 人(大島) ③ 研究員…6 人(平野、久世、田口、鉄井、長野、滝) ◇代表以外がファシを担う割合が 33%(日数ベース)であった。 ◇ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。 ① T講座F経験者… 2 人(青野、加古)(昨年度 0 人) ② 研究員候補…0 人(昨年度 0 人)	◆NIED ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度におけるステップアップ者を増やせるよう検討、実施していく必要がある。

### ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

#### (1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2022 年度実績

◇地域・テーマの場…5 件 刈谷市、香川県、名古屋 NGO センター、長久手町 (昨年度 4 件)  
◇参加者数…105 人 (昨年度 64 人)、 ◇延べ 179 人 (昨年度 95 人)  
◇提供時間…40.5 時間 (昨年度 28.0 時間)

#### (2) その担い手を育成する研修の 2022 年度実績

◇地域・テーマの場…4 件 : 刈谷市、名古屋市、岐阜市、香川県 (昨年度 1 件)  
◇テーマ…多文化共生、消費者教育、SDGs  
◇参加者数…118 人 (昨年度 25 人)、 ◇延べ 145 人 (昨年度 25 人)  
◇提供時間…19.5 時間 (昨年度 4.0 時間)

## ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

### (1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

#### e. わたし・あなた・みんなプロジェクト = ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信 担当: 滝

区分	実績・成果	課題
①SE ラボ 寄り合い	◇寄り合いとしては実施しなかった。	◆交流プロジェクトとの協働に力を注いだ分だけ、SE ラボ単独としての活動はなかった。
②「わたし、みんな、あなた」に関する研究・発信	◇NIED が考える「わたし、あなた、みんな」と、「直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力」の共通性を研究するにおいて、NIED 会員交流会という場を得られた。	◆NIED が考える「自分、他者、社会にかかわる力」と、「直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力の相互依存・補完」との関連についての研究という点では、それを進めるための入り口といったソフトなワークショップ・プログラムを作るに留まった。

#### f. NIED本出版プロジェクト = ミッション②③に関する研究・発信 担当: 田口

実績・成果	課題
<p>◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』-他者に関わる力を育もう-」(初版 515 冊/2018 年 3 月出版、第 2 版 500 冊増版/2022 年 3 月)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して普及に取り組み 56 冊を頒布することができた</li> <li>・開発教育協会に委託頒布をした。</li> </ul> <p>◇2 冊目の本「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『人権編』-身近な人権を考える-(仮称)」の作成に取り組んでいる。人権本は身近なテーマを取り扱う予定で、多様性、セルフ・エスティーム、ジェンダーなどのアクティビティの執筆を進めている。</p> <p>◇プロジェクトメンバーが 1 人増え、7 人となった。そして、ミーティングを 12 回開催した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コミュニケーション編残り残数をいかに頒布するか。</li> <li>◆人権本の作成をしているが、残り 15% 程度の執筆が残っている。</li> <li>◆ミーティングのペースが落ちており、作成が滞っている。</li> </ul>

**g. 公共プロジェクト** =ミッション①②③に関する研究・発信 担当:谷口・吉岡

実績・成果	課題
<p>◇2022年4月から高等学校の公民科の新教科となった「公共」の授業で使える参加型の授業プログラムの作成を進めている。2022年度は、ほぼ月一回のペースでZoomでの寄り合いを開催した。</p> <p>◇プログラムの開発が進み、実践をしてプログラムの見直し段階のものがほとんどとなった。</p> <p>◇中京大学、光ヶ丘女子高等学校、愛知教育大学で「幸福」「公正」「職業観・労働観」「アドボカシー」「私たちのお金と市民生活」「人権」「セルフ・エスティーム」「多様性」「社会保障」のプログラムを実践できた。実践の結果を踏まえて、プログラムの見直しを進めている。</p> <p>◇公共の教科書を手に入れて、内容の確認をすることができた。</p> <p>◇作成した授業案をどのようにしてできるだけ多くの先生方の手元に届けるか、についての話し合いをし、全体がもっと形になった段階で再度考えることになった。</p>	<p>◆プログラムの見直しはとても時間がかかりなかなか進んでいない。(いつまでに作るかという期限が必要かもしれない。)</p> <p>◆実践の機会をもっと増やす。</p> <p>◆作成した授業案をどのように多くの先生方の手元に届ける方法を考える。</p> <p>◆プログラムを読みやすい形にするためのまとめ方を決める。</p> <p>◆プログラム作成や発表に関して、他団体との良い協力関係を作っていく。</p> <p>◆高等学校の指導要領は変わったが、公共の授業を含めアクティブラーニングが積極的に導入されるまでにはまだ時間がかかりそうだ。</p>

**h. 書籍活々(いきいき)プロジェクト** =全ミッションに関わる調査・研究 担当:伴

実績・成果	課題
<p>◇NIED 会員と共に学び合うワークショップを3回開催した。 (12/10 森、2/19 民主主義、3/26 みんな違ってほんとにいいの?) 参加人数は延べ15名。 (NIED 会員+プロジェクトメンバー=3名+12名)</p> <p>◇プロジェクトメンバーミーティングを6回開催した。</p>	<p>◆書籍整理・貸出管理の機会が持てなかった。</p>

**i. NIED情報共有システム** =全ミッションに関わる調査・研究 担当:川合

区分	実績・成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度の自主講座の記録、あいち惟の森のプログラムと教材を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆情報ボックスの許容量の上限を上げる契約に変更するなど、共有する範囲を増やす必要がある。</p>
一般情報共有・交換	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は216件[前年度235件]であった。</p> <p>◇NIED 徒然の発行は、ほぼ予定回数の11回行うことができた。</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムの周知を図った。</p>	<p>◆引き続き、定期的にNIED 徒然を発行し、内容の充実を図る。</p>

**k. ホームページ・広報プロジェクト** =全ミッションに関わる発信 **担当:川合**

実績・成果	課題
<p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに 7 件[前年度 8 件]投稿した。</p> <p>◇NIED フェイスブックページは 1,072 人がフォローし、前年同期より 37 人増加に留まった。投稿数は 9 件 [前年度 11 件]投稿した。</p>	<p>◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が減少した。広報担当者だけでは活動すべてを把握することが難しく、活動に関わる人が広報にもかかわったり、投稿したりできるような形にしていくことが望まれる。</p> <p>◆より伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。</p>

**⑥ その他 活動の基盤となる活動を行います。**

**l. 会員コミュニケーション** =全ミッションに関わる会員交流 **担当:薄井**

実績・成果	課題
<p>◇共同体としての意識を向上させ、会員間のコミュニケーションから新たなミッション実現のための種を生み出せるよう、2022 年度に発足。</p> <p>◇任意の自己紹介を会員 ML にて実施。</p> <p>◇夏ごろより、「わたし・あなた・みんなプロジェクト」とコラボを開始し、延べ 9 回のミーティングができた。また、会員全員を対象にした「NIED 交流会」を 4 回開催。新しい会員にも参加してもらえた。</p>	<p>◆任意ではあるものの、ML 上での自己紹介が進んでいないが、22 年度末から 23 年度にかけて新しいメンバーの入会+自己紹介をしてもらい、再度自己紹介を ML 上で実施中。</p> <p>◆「わたし・あなた・みんなプロジェクト」とのコラボ企画で、SE ラボメンバーによる多大なサポートがなければ、交流会を実現できなかったため、23 年度以降は、担当理事(薄井)がもっとリーダーシップをもって本 PJT を推進しなければならない。</p>

## 4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

### ● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

(1) 事業内容

自治体、学校、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境などをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

(2) 開催概要

2022年度は、合計17事業（前年度：8事業）で、研修等の提供時間は89.0時間（前年度：77.0時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 692人（前年度：677人）

(4) 収入額 1,593,257円（昨年度：1,536,461円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 905,705円（昨年度：937,891円）人件費519,206円、謝金・外注費102,200円、旅費交通費227,409円、雑費56,890円

### ● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

(1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座を自主事業として行った。

(2) 開催概要

2022年度は、合計2事業（前年度：0事業）で、研修等の提供時間は18時間（前年度：0時間）であった。

(3) 延べ参加者数 15人（前年度：40人）

(4) 収入額 39,500円（昨年度：232,000円）参加費

(5) 支出額 85,952円（昨年度：113,793円）人件費18,372円、謝金・外注費67,580円、

### ● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

(1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

(2) 開催概要

2022年度は、合計3事業（前年度：3事業）、研修等の提供時間は75.0時間（前年度：46.0時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 440人（前年度：417人）

(4) 収入額 17,781,436円（昨年度：16,333,243円）委託費

(5) 支出額 15,924,293円（昨年度：14,787,322円）人件費6,345,460円、謝金・外注費6,641,980円、旅費交通費781,190円、通信運搬費962,980円、印刷製本費1,085,670円、消耗品71,565円、雑費35,448円

## ● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

### (1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

### (2) 開催概要

2022年度は、5つの事業（前年度：6事業）、研修等の提供時間は120.0時間（前年度：112.0時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 431人（前年度：556人）

(4) 収入額 112,600円（昨年度：208,320円）書籍頒布代

(5) 支出額 471,013円（昨年度：667,627円）人件費112,600円、謝金・外注費369,820円、旅費交通費31,766円、通信運搬費2,500円、消耗品費6,340円、雑費1,595円

## 5 会議の開催に関する事項

### (1) 総会 2022年度定期総会

日時 2022年6月12日（土）14:00～16:00

場所 なごや地球ひろばセミナールームB&オンライン

出席者数 正会員総数36人中、当日出席20人、委任状出席15人、合計35人

- 議題
- (1) 2021年度事業活動報告（案）及び決算（案）の承認に関する件-----承認
  - (2) 2022年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認
  - (3) 役員の改選の承認に関する件-----承認

### (2) 理事会 2022年度は、下表のとおり5回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	4月10日（土） 14:00～17:00	(1) 2021年度事業報告案について (2) 2022年度事業計画案について	オンライン	9人
2	5月14日（土） 13:00～17:00	(1) 2021年度事業報告案について (2) 2022年度事業計画案について (3) 総会の開催方法について	オンライン	9人
3	6月4日（土） 14:00～16:00	(1) 総会の進行方法について (2) 2021年度決算案、2022年度予算案について	オンライン	9人
4	1月5日（金） 15:30～18:00	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 20周年記念事業のアイデアについて (3) NIED・NEXTについて (4) 定款変更について	NIED事務所 オンライン	9人
5	3月11日（土） 15:00～17:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況と課題について (2) NIED・NEXTについて	NIED事務所 オンライン	10人